

トキ 野生復帰にむけて

89



佐渡を世界遺産に

世界遺産登録に向けて

— 世界遺産国際シンポジウム開催 — 海外の専門家が構成資産を視察

3月20日、新潟市中央区の朱鷺メッセマリノホールを会場に、世界遺産国際シンポジウム「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」が開催されました。

これは、佐渡金銀山の早期かつ確実な世界遺産登録を目指し、ユネスコへ提出する推薦書の作成のため、国際的な視点から国内外の学識者が意見交換を行ったものです。

シンポジウムに先立ち、3月16日から18日にかけて、産業遺産の保護を目的とした機関、国際産業遺産保存委員会会長パトリック・マーチン氏と、世界遺産コンサルタントのバリー・ギャンブル氏が佐渡市を訪れ、旧佐渡鉱山の近代化遺産などを視察しました。

マーチン氏は歴史考古学や産業考古学の専門家、ミシガン工科大学の社会科学部長を務めています。ギャンブル氏は、イギリスの「コーンウォールと西デヴォンの鉱山景観」など産業遺産の世界遺産登録に尽力しています。

視察終了後開催されたワークショップで両氏は、「佐渡金銀山遺跡には、400年にわたる関連資産が残されており、その継続性に価値がある。また、鉱山絵巻など文献資料がそろっていることも、世界的にもあまり例がない」と評価。佐渡金銀山の世界遺産登録については、「その保護と保存のための研究は始まったばかり。推薦書を提出した後の、さまざまな研究・保存事業を着実に進める必要がある」と語っていました。



大間港の説明を聞くギャンブル氏(右から2人目)とマーチン氏(右端)

■第6回トキ放鳥に向けて訓練開始

3月7日から、第6回放鳥に向けての順化訓練が、佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションの順化ケージにおいて開始されました。

7日に訓練を開始した個体は、オス10羽、メス3羽の合計13羽で、そのうちオス3羽にGPS送信器を装着しました。順化ケージに移動したトキは、飛翔や採餌等の能力を身につけるため、3か月程度の訓練期間を経て、5月下旬から6月上旬にかけて放鳥される予定です。



写真：環境省提供

■トキの情報をお寄せください

現在島内には40羽以上のトキが確認されており、繁殖期にはペアごとに群れを離れて分散して生活しています。また、放鳥後などは島内各地を多く移動します。

もし、トキを見かけたらトキ交流会館(フリーダイヤル0120-980-551)へ情報をお寄せください。市民の皆様からいただいた情報が、トキの野生復帰を進めるための重要なデータとなりますので、ぜひご協力をお願いします。目撃情報のほか、トキに関する困りごとの相談も受け付けています。

■トキの繁殖期は観察を控えましょう

3月から6月はトキの繁殖期です。繁殖期間中のトキは、とても神経質になります。人が巣に近づいたりしてストレスを感じると、営巣(巣づくりや子育て)をやめてしまうことがあります。繁殖期間中は、トキの営巣場所付近への立ち入りはご遠慮ください。ようお願いします。

ヒナが誕生すれば、自然下では36年ぶりとなります。温かく見守っていきましょう。

トキとの共生ルール

- ① 優しく静かに見守りましょう。
- ② トキに餌づけをしないようにしましょう。
- ③ トキを観察するときは地域に迷惑をかけるないようにしましょう。
- ④ 繁殖期間は、トキの巣に近づかないようにしましょう。ただし、農林業等にに従事されている方は、田んぼ等で作業中にトキが近くにいるても特別な配慮は必要ありません。

◆市役所農林水産課 生物多様性推進室
トキ政策係(第2庁舎) ☎63-3761

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136

